

## ⑦0 しんかどのわき石巻市新門脇地区における地域コミュニティと協働した復興まちづくり

受賞機関 石巻市  
独立行政法人都市再生機構  
宮城震災復興支援本部

**キーワード** 復興まちづくり、コミュニティ形成、CM方式

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

石巻市新門脇地区において、土地区画整理事業と復興公営住宅の建設を併せて行い、安心安全なまちづくりを実現させた取組み。CM方式の採用により、設計・施工を一体的にマネジメントして早期復興を図った点や、設計段階よりまちづくりに対する地元の意見を取り入れて進めた点、地域コミュニティの形成を図るため、地元中学生と進めた公園づくりや地元住民と連携したカーシェアリングの取組みが評価された。

### 1. はじめに

旧北上川の河口に位置する石巻市新門脇地区は既存の家屋や寺院、墓地等を抱え、石巻市域の中でも最も壊滅的な被害を受けた地区である。石巻市は、平成23年12月に復興基本計画を策定し、海岸防潮堤や河川堤防及び高盛土道路による「多重防御」の街づくりを実施することとした。

### 2. 事業の概要

石巻市は、復興事業の推進にあたり、平成25年3月に都市再生機構（以下「UR」という）と協力協定を締結し、土地区画整理事業と復興公営住宅整備事業を実施した。

市及びURは地元の「復興まちづくり協議会」が取りまとめたまちづくりのテーマ等を踏まえて、都市計画素案及び基本構想案を作成し、約450名に及ぶ多くの地権者の意向を反映しながら、まちづくりに努めた。

さらに、新門脇地区の一日も早い復興を目指し、工期短縮に向けた工事履行体制として区画整理、下水道、復興住宅整備を含めた設計・施工の一体的マネジメントを行うCM方式を採用した。

安全安心なまちづくりを進めるため、高盛土道路の整備や高台への避難ルートの確保、津波避難ビルの機能を有する復興公営住宅を一体的に整備、あわせてまちづくりへの市民参加を図るため、地元中学生と進めた公園づくりへの協力などの取組みも実施した。

### 3. 事業の成果

宅地の使用収益開始は平成28年3月から開始、復興公営住宅は工事着手からわずか1年余りの平成28年10月に入居が開始した。事業全体は本格的工事着手から約4年という短期間で完了を迎えた。

高盛土道路の整備と併せ、いざという時には高台へ避

難するため、地元要望も踏まえて日和山等高台への複数の避難ルートを整備した。

地元中学生からの「けがをしにくい芝生広場」や「子供達が楽しめる遊具の設置」などの提案を元に設計を行った公園では、地元の夏祭りなども行われるなど、地域の方々に多く利用されている。

復興公営住宅では、カーシェアリングを導入し、単なる車の共有と捉えるのではなく、外出支援や見守り活動といった、周辺住民も入れたコミュニティ形成のツールとして活用している。



公園計画の検討・模型作成



コミュニティ・カーシェアリングの紹介

### 4. おわりに

石巻市、地元住民、UR、共同企業体が協力することで、新門脇地区の復興事業は安心・安全・快適なまちづくりを実現し、地域コミュニティの再生を早期に実現できた。

賛助会員 (株)竹中土木、八千代エンジニアリング(株)